

年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。大学を取り巻く環境は引き続き厳しいものがありますが、会員の皆様お一人お一人にとって新しい年が飛躍と発展の1年になるよう心からお祈りしたいと思います。

さて、「大学マネジメント研究会」も今年で創立7年目を迎えます。私以下役員を中心に、機会があるごとに、関係者に本会の意義を訴え、個人、法人会員入会を促してきました。おかげさまで少しずつではありますが、会員数が増えつつあります。会員の増加は会の財政基盤の強化に寄与しますが、それ以上に本会の目指す経営力の強化、経営人材の育成、国際標準の教育の構築という目標が理解され、支持を広げていき、ひいては改革の実践につながるという意味でとても意味があることと思います。

今年も月刊誌「大学マネジメント」の刊行や地域交流会、マネ研サロンなどの活動を着実に継続するとともに、国立大学の経営改革に関する調査研究、若手職員の研修、英国大学職員協会（AUA）との連携・協力などの新規事業も実施に向けた検討を始めたいと考えています。また、2011年度事業計画に盛り込んだ「大学トップマネジメント・リーダーシップ・プログラム」（TMLP）第3期の実施は、準備不足のため見送りを余儀なくされましたが、本年度の実施に向けて準備を続けたいと思います。

とにかく大学改革は、それが本質的なものであればあるほど学内で合意を得ることが難しく、時間がかかりますが、誰かが泥をかぶり、不退転の決意で改革に取り組まなければなりません。本会は大学や行政の現場、あるいは企業の立場から大学の再生を願い、行動する人たちのための「拠り所」になるべく今年も頑張りますので、様々な形でのご支援、ご助言をお願いします。

(2012年1月11日記)



2011年10月24日、AUA 訪日調査グループのプレゼンテーション（東京・霞ヶ関）